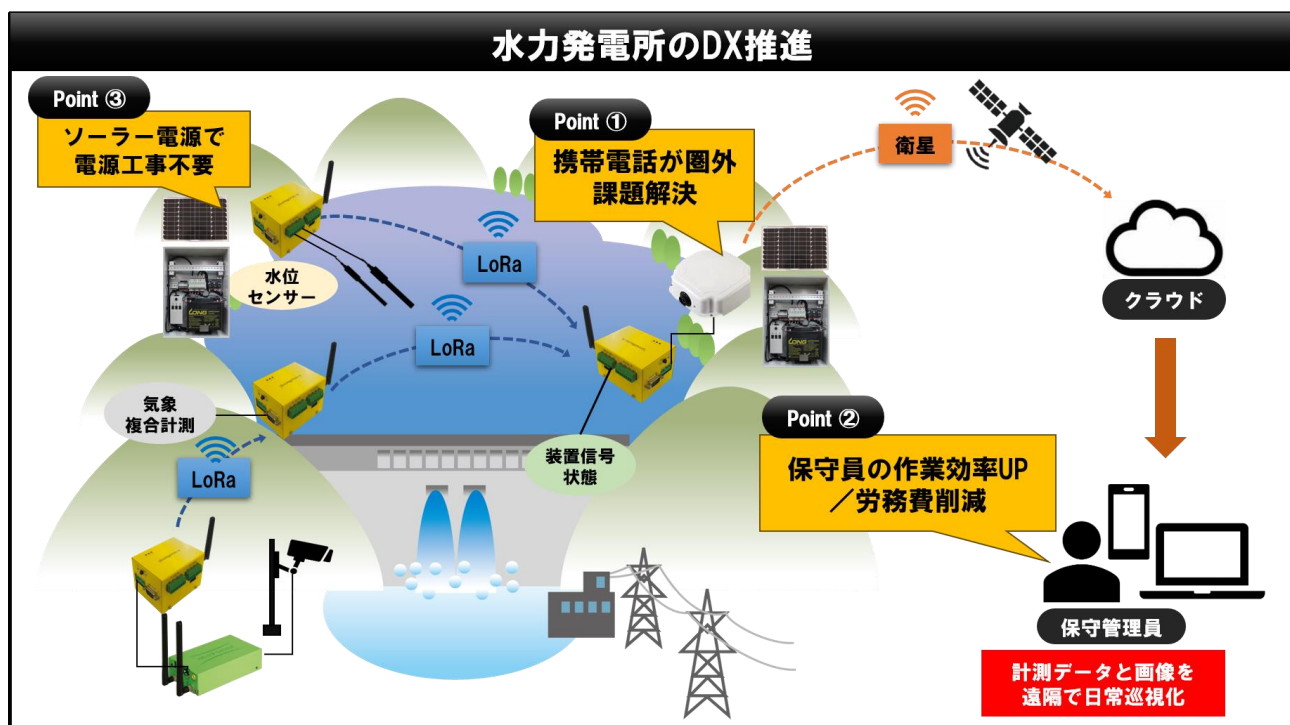


## 中山間部を衛星通信とLPWAで補う『インフラ施設のDX推進』

### ■課題

中山間地域の特性を活かす電力インフラは、携帯電話が圏外／現場までの移動手段が過酷・困難な地域に多く存在します。このような通信環境が整っていないくても、平常運転を維持させる必要があります。また、設備や施設の老朽化や現場技術者の世代交代が進まない事からも保守管理体制の低下懸念が出てきております。



### 【概要・期待効果】

衛星通信とLoRa通信が携帯圏外の課題解決によって、保守員が現場へ出向かず常時計測データ(水位計測値、設備制御信号や気象観測値)と現場画像を遠隔確認できるため、保守運用業務の大幅な効率化が期待できます。また、通信機器は省電力動作のためソーラー電源での運用が可能です。

- Point① 衛星通信とLoRa通信が携帯圏外エリアをカバー。
- Point② DX化により常時遠隔監視できるため、保守員の作業効率化と人件費・移動交通費・宿泊費の間接コストを削減。
- Point③ ソーラー蓄電池を動力源とすることで、広大な敷地各所に電源敷設工事なく運用可能です。

